

## —若手技術者のコーナー—

## 土木系女子（ドボジョ）としての抱負

## 1. はじめに

私は平成28年に松山市役所に入庁し、今年で4年目を迎えた。入庁後3年間は、公園緑地課に配属され、公園の維持管理業務を担当し、4年目の現在は、道路管理課に配属され、松山市道の維持管理業務を担当している。本文では、これまでの業務を通して感じたことや、土木系女子（ドボジョ）としての今後の抱負について述べていきたい。

## 2. 公園緑地課での業務について

初めに配属された公園緑地課では、公園の日常管理や、遊具の修繕工事等の業務に携わった。公園は、街の憩いの場や子どもたちの遊びの場であるとともに、災害時には避難場所でもあるため、常に安心して利用できるものでなければならない。そのため、年に数回行う公園の遊具点検では、遊具に異常箇所が無いのか、樹木が枯れていないか等、細かく点検を行った。幅広い年齢層から利用される公園は、要望や苦情が多い。子どもの声がうるさい等のどうしようもないものから、破損した遊具の修繕要望まで様々である。桜の木1本撤去するだけでも、近所の人や地元の町内会長等、多くの人の同意が必要になり、撤去するまでに半年以上掛かったこともある。

公園の維持管理業務では、時には厳しいおしかりを受けつつ、限られた予算のなかで何を優先し、どう修繕するか考え業務を行わなければならない。私が特に気を付けたことは、公園を利用する子どもの視点で、公園をみるということである。子どもにとって公園は、たくさんの楽しい思い出をつくる場所であるため、公園管理者として、子どもに怪我をさせて悲しい思い出をつくらせないよう心掛けていた。また、小さいお子さんをもつお母さんからの「女性のあなたに相談してよかった。」という言葉には、これまで苦労してきたことが全て消え去るほどの喜びややりがいを感じていた。

## 3. 道路管理課での業務について

今年度から配属された道路管理課でも、担当が維持管理業務ということもあり、日々、多くの要望や相談・苦情が寄せられている。道路は市民の生活に最も密接した地域の生活基盤であるため、職員は迅速かつ適切に市民の要望に対応しなければならない。

現在の業務のなかで気を付けていることは、小さい子どもをもつ主婦の目線で道路をみるようにしている。そうすることで、今まで気が付かなかった道路の危険箇所を発見し、事前に事故を防ぐことができるのである。

近年、子どもたち等が交通事故に巻き込まれる痛ましいニュースが後を絶たない。日々寄せられる、どんな要望や意見に対しても、相手の気持ちにより添って考え、安全で安心できるまちづくりに取り組んでいきたいと思っている。

## 4. おわりに

土木界は未だ“男社会”というイメージが強いように感じる。しかし、近年土木技術者を目指す女性は増えており、社会意識も変化しつつある。同期にも、ドボジョは3人おり、日々助け合って業務を行っている。今後もドボジョとして、女性ならではの視点を活かし、人々の毎日の暮らしや当たり前の日常を守っていきたい。



同期のドボジョ3人組

(松山市 都市整備部 道路管理課 越智 ゆかり)